

# (平成22年度入学生対象)

別記様式1

## 主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

提供学部（学科）名〔教育学部第五類(人間形成基礎系)心理学系コース〕

プログラムの名称(和文)	心理学プログラム
(英文)	Psychology
<b>1. プログラムの紹介と概要</b> <p>心理学プログラムでは、複雑化、混迷化する現代社会において、心に関連したさまざまな問題の解決が求められている状況に応えるため、心の仕組みや働きについてよく理解し、心に関する問題を発見してそれを解決する能力を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>そのために、本プログラムでは、認知心理学、学習心理学、社会心理学、教育心理学、発達心理学、臨床心理学といった心理学の主要な領域の知識を広範囲に得ることができるようになっている。また、人間の心について理解するための方法を理解し、技能も身につくようになっている。</p> <p>プログラム修了後、日本心理学会に申請することにより「認定心理士」の資格を得ることができる。また、修了後の進路として、国家・地方公務員、家庭裁判所調査官、福祉職、一般企業、高等学校教員など広範囲な領域で活躍したり、大学院に進学してさらに研鑽を積み、大学や研究機関などで活動したりと、多様な道が開かれている。</p>	
<b>2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件</b> <p>教育学部第五類心理学系コースに入学した学生は、原則として1セメスターから心理学プログラムを開始する。他学部・他コースの学生が、転学部・転コースにより心理学プログラムへの参加を希望する場合の開始時期や参加するために満たなければならない条件などは、別に定める。</p>	
<b>3. プログラムの到達目標と成果</b> <p>(1) プログラムの到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"><li>人間を自然科学，人文科学，社会科学など多方向から見つめる視点を得るとともに，人間の認識や情報処理の仕組み，人間関係や社会の中で生きる人間，人間の学習や教育，心の成長のプロセス，心の悩みや適応への援助の仕方，脳や身体と心の関係など，心の仕組みや働きを理解するための多様な知識を身につけること</li><li>論理的に考え，合理的に判断する能力と態度を身につけ，心の測定法やデータの収集・分析法など，人間の心について理解するための方法を理解し，基礎的および実践的な研究活動を行うことができるようになること</li><li>研究の過程や成果を表現する，さまざまな他者と情報を交換するなど，意思の疎通を図るためのコミュニケーション能力を身につけること</li><li>人間に関する知の蓄積に立脚し，事実に基づきながら新たな知を探求する意欲と態度を形成すること</li></ol>	

## (2) プログラムによる学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）

### ○知識・理解

#### 1. 心の仕組みや働きに関する標準的知識

認知心理学領域の標準的知識

学習心理学領域の標準的知識

社会心理学領域の標準的知識

教育心理学領域の標準的知識

発達心理学領域の標準的知識

臨床心理学領域の標準的知識

#### 2. 心の仕組みや働きに関する発展的知識

認知心理学領域の発展的知識

学習心理学領域の発展的知識

社会心理学領域の発展的知識

教育心理学領域の発展的知識

発達心理学領域の発展的知識

臨床心理学領域の発展的知識

### ○知的能力・技能

#### 1. 文献や資料を理解し、批判的に評価する基本的能力・技能

内容を正確に理解する基本的能力・技能

内容を批判的に評価する基本的能力・技能

#### 2. 科学的な研究方法の理解、及び研究を実施するために必要な基本的能力・技能

科学的方法の特徴の理解

心理学的測定に関する基本的能力・技能

心理統計法に関する基本的能力・技能

心理実験法に関する基本的能力・技能

心理社会調査法に関する基本的能力・技能

心理検査法に関する基本的能力・技能

### ○実践的能力・技能

#### 1. 研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能

#### 2. 研究課題について、適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能

実験法，調査法，検査法に基づいて資料・データを収集する能力・技能

記述統計，推測統計の基本的手法を，収集した資料に適用する能力・技能

3. 研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能

研究の過程と成果を、口頭および論文で公表する能力・技能

自分や他者の発表を批判的に評価する能力・技能

○総合的能力・技能

1. 心の仕組みや働きに関して探求するための能力・技能

2. 現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

学士 (心理学)

128 単位	教養教育 46 単位		
	専門教育 74 単位	専門基礎科目	18 単位
		専門科目	25 単位
		専門選択科目	25 単位
		卒業論文	6 単位
		教養と専門のどちらでもよい科目	8 単位

(2) 得られる資格等

- ・日本心理学会に申請することにより「認定心理士」の資格を得ることができる。
- ・教育職員免許法に基づいて教職関係科目（教職に関する科目および教科に関する科目）を併せて修得することにより、教員免許（例：高等学校教諭一種免許（公民）など）を取得することができる。

(3) プログラムの構造

専門教育は、人間の心を理解するための知識の獲得を目指す講義科目と、心を理解する方法を習得するための演習・実習科目に大別される。また、外国語による情報収集を速くかつ正確に行うことができるようになるための外書講読演習を提供する。さらに、心理学やその周辺の多様な関連領域に関して自由な学習が行えるよう、他プログラムの科目を習得した場合、一定の限度内で本プログラムの単位として認めている。

講義科目には、2年次に履修する領域概論（「認知心理学」、「学習心理学」、「社会心理学」、「教育心理学」、「発達心理学」、「臨床心理学」）と、主として3年次に履修する領域特論（「知覚心理学」、「対人心理学」、「児童・青年期発達論」、「乳幼児心理学」、「心理療法論」、「教育相談」、「精神医学」、「生徒・進路指導論（この科目のみ2年次）」）がある。また、心理学の研究法を理解するための科目（「心理統計法Ⅰ・Ⅱ」、「心理実験法」、「心理社会調査法」、「心理検査法Ⅰ・Ⅱ」）を2年次に履修する（ただし、心理検査法Ⅱは3年次）。

演習・実習科目は、1年次の基礎実習で始まる。2年次には研究法に関する講義によって基礎的な知識を得ると同時に、研究の計画や実施に必要な情報（英語で提供されることが多い）の収集や分析を行えるようになるために外書講読演習を履修する。3年次の研究法演習でさらに訓練を受けた後、卒業論文

で各自の研究テーマに取り組む。

これらの科目間の関係を、別に図で示す（別紙2）。

#### (4) 卒業論文（卒業研究）（位置付け、配属方法・時期等）

##### ○プログラム内での位置づけ

心理学プログラムの到達目標である「心の仕組みや働きに関する理解」と「心に関する問題を発見してそれを解決する能力」に基づき実施するもので、その達成度を総合的に評価するものである。

##### ○配属方法と配属時期

6セメスター開始時に卒業論文の指導教員を決定する。学生は、各教員が指導可能な研究内容等の情報に基づき、卒業論文で実施したい研究内容とともに希望する指導教員を届け出る。学生の希望をできるだけ尊重するが、人数の偏りが大きい場合には、調整を行う。

## 5. 授業科目

### (1) 授業科目名

教養教育領域科目 : 心理学 A, 心理学 B

専門基礎科目（研究法） : 心理学基礎実習 I・II, 心理統計法 I・II, 心理実験法  
心理社会調査法, 心理検査法 I・II

（外書講読） : 心理学外書講読演習 I・II・III・IV

専門科目（領域概論） : 認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学  
臨床心理学

（領域特論） : 知覚心理学, 対人心理学, 児童・青年期発達論, 乳幼児心理学,  
心理療法論, 生徒・進路指導論, 教育相談, 精神医学

（研究法演習） : 心理学課題演習, 認知心理学課題研究 I・II, 学習心理学課題研究 I・II,  
社会心理学課題研究 I・II, 教育心理学課題研究 I・II  
発達心理学課題研究 I・II, 臨床心理学課題研究 I・II

卒業研究 : 卒業論文

専門選択科目, 自由選択科目 : 学生の選択による

## 6. 教育・学習

### (1) 教育方法・学習方法

心理学プログラムの目標を達成するためには、教職員の努力に加えて、学生の主体的、積極的な取り組みが必要である。人的資源、物的資源の両方を最大限に活用して、より良い成果を手に入れることを期待する。

## (2) 学習支援体制

- ・5セメスター（3年次前期）までは、主としてチューターが学習を支援する。
- ・6セメスター（3年次後期）以降は、チューターと卒業論文指導教員が協力して学習を支援する。
- ・実習を行う授業では、大学院生がTA（ティーチングアシスタント）として参加し、さまざまな疑問や問題に対応する。
- ・心理学関係の図書や雑誌などに関して、心理学講座の図書室、和・洋雑誌室に整備している他、情報検索や文献・資料収集のためのコンピュータ端末が利用できる。

## 7. 評価（試験・成績評価）

### (1) 到達度チェックの仕組み

- ・各授業の到達度評価は、別紙4（到達目標評価項目と評価基準の表）の基準で行う。
- ・科目群ごとの到達度評価は、該当する授業科目の評価を総合して行う。
- ・プログラム全体としての評価は、個々の授業科目の評価に加え、卒業論文やその発表の内容により総合的に行う。

### (2) 成績が示す意味

- ・各授業の成績は、秀・優・良・可・不可で判定する。

## 8. プログラムの責任体制と評価

### (1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価検討(check)・対処(action)の各責任者）

- ・計画、実施、評価検討、および対処は心理学プログラム教員会が行う。責任者は、心理学講座の主任である。
- ・教育学部の担当組織などによる外部評価を実施する。
- ・対処については、心理学プログラム教員会のみでなく、教育学部長等も責任をもって対応する。

### (2) プログラムの評価

#### ・プログラム評価の観点

- ・学生が一定基準以上の目標を達成しているかどうかを評価する。
- ・授業科目の配置がプログラム全体として適切であったかどうかを、学生による授業評価と学生の到達度評価により判断する。
- ・個々の授業内容がプログラム全体の中で適切であったかどうかを、学生による授業評価と学生の到達度評価により判断する。
- ・自由選択科目および選択専門科目の履修状況を把握し、選択科目を設置した目的が達成されているかどうかを評価する。

#### ・評価の実施方法（授業評価との関連も記載）

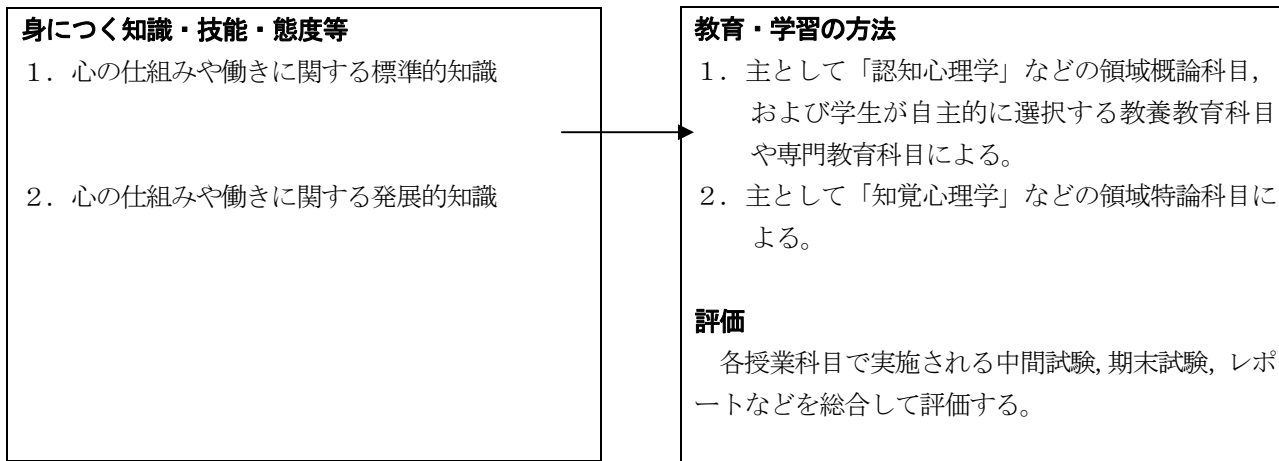
- ・学生による授業評価によって、個々の授業内容を検討する。
- ・個々の授業について、学生の目標達成度を評価する。
- ・卒業論文やその発表の内容を評価し、プログラムにおける授業科目の配置の適切さなどについて検討する。

・学生へのフィードバックの考え方とその方法

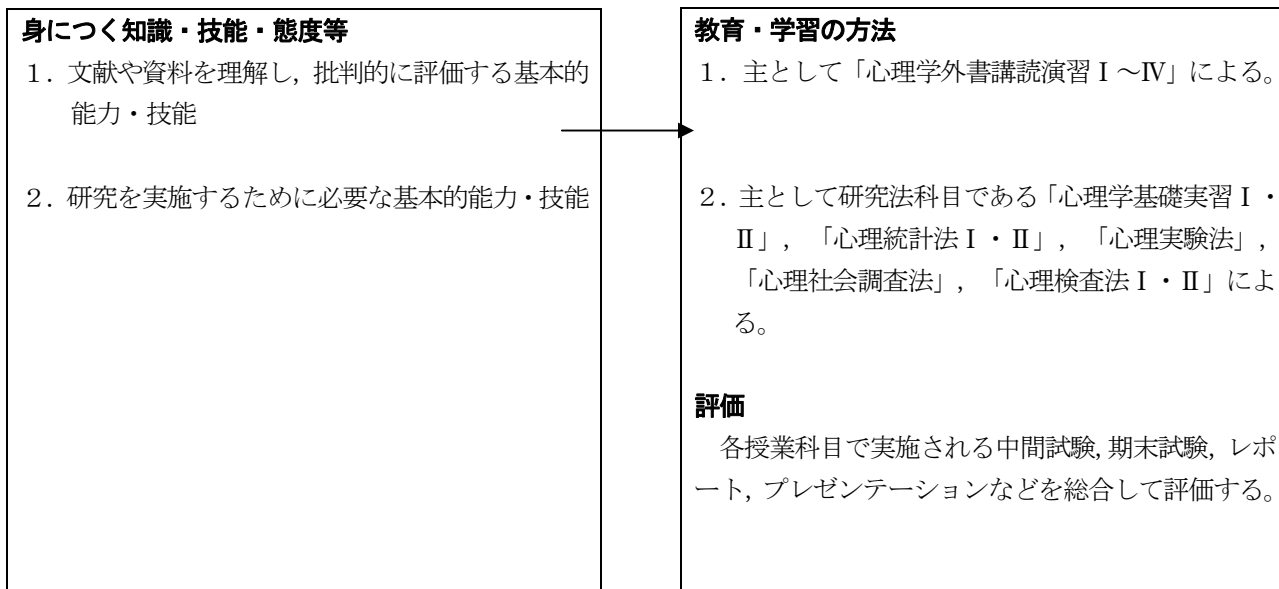
- ・学生による授業評価の結果と、それに対する教員のコメントを併せて公開する。変更点等があれば、具体的に記述する。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解



○ 知的能力・技能



○ 実践的能力・技能

**身につく知識・技能・態度等**

1. 研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する  
能力・技能
2. 研究課題について、適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能
3. 研究の過程と成果を表現したり評価したりする  
能力・技能

**教育・学習の方法**

主として、「心理学課題演習」、「心理学課題研究Ⅰ」、「心理学課題研究Ⅱ」による。

**評価**

各授業科目における課題への取り組み、経過発表、成果発表を総合して評価する。

○ 総合的能力・技能

**身につく知識・技能・態度等**

1. 心の仕組みや働きに関して探求するための能力・技能
2. 現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度

**教育・学習の方法**

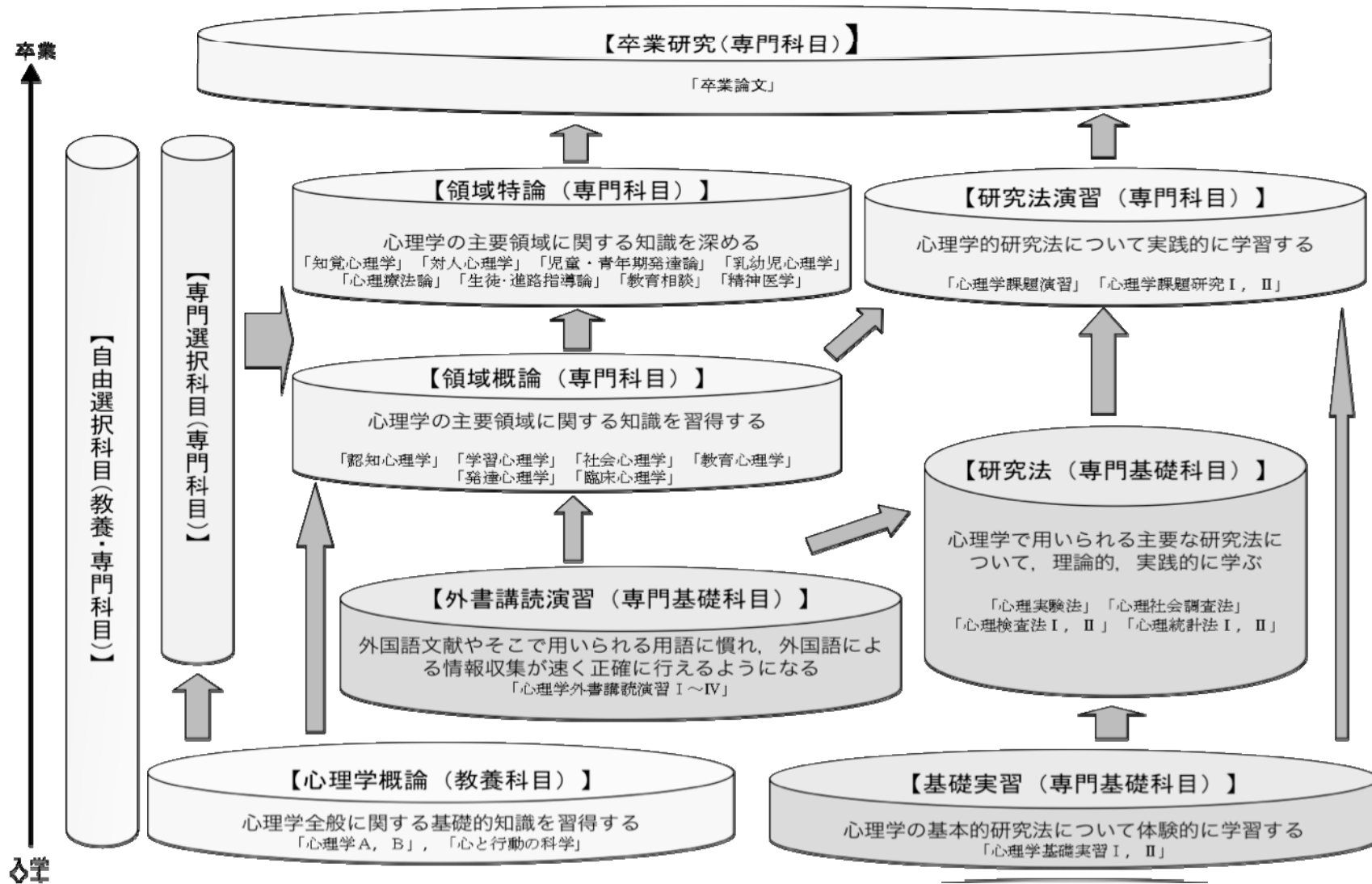
「心理学課題研究Ⅱ」「卒業論文」による。

**評価**

主として「卒業論文」の作成過程におけるさまざまな活動、および研究内容とそのプレゼンテーションにより総合的に評価する。



# 心理学プログラムの構造



## 教養教育科目履修基準表

## 第五類 心理学系コース（心理学プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目	単位数	履修指定	履修年次															
						1年次		2年次		3年次		4年次									
						前	後	前	後	前	後	前	後								
教養教育	共通科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	②														
							○														
		英語 (注1)	コミュニケーションⅠ	4	コミュニケーションⅠA	各1	選択必修	○													
					コミュニケーションⅠB			○													
		英語 (注1)	コミュニケーションⅡ	4	コミュニケーションⅡA	各1	選択必修		○												
					コミュニケーションⅡB				○												
		上記4科目のうちから2科目以上 (注2)																			
		英語 (注1)	コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢ	各1	選択必修			○	○										
					コミュニケーションⅢ					○	○										
					コミュニケーションⅢ					○	○										
コミュニケーションⅢ								○	○												
コミュニケーションⅢ								○	○												
コミュニケーションⅢ								○	○												
上記6科目のうちから2科目																					
英語以外の外国語 (ドイツ語, フランス語, スペイン語, ロシア語, 中国語, 韓国語のうちから1言語選択)	4	ベーシック外国語Ⅰ	2	選択必修	○																
		ベーシック外国語Ⅱ	2	選択必修		○															
		I, IIは同一言語を選択すること																			
情報科目	(2)	情報活用基礎, 情報活用演習から1科目 (注3)	2	自由選択	○	○															
パッケージ別科目	6	「パッケージ別科目」の中の決定された1パッケージから3科目	各2	選択必修	○	○															
総合科目	2	「総合科目」のうちから1科目	2	選択必修			○	○													
領域科目	4	心理学A	2	必修	②																
		心理学B	2			②															
(18)	(18)	全ての領域から (注4)		選択必修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
スポーツ実習科目	(2)	「スポーツ実習科目」から	各1	自由選択	○	○															
計		46																			

注1 : 『英語』の履修については、上記の他、短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」、自学自習による「マルチメディア英語演習」を履修し、卒業に必要な単位（6単位）に含めることも可能である。また、外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。

注2 : コミュニケーションⅠ及びⅡは、クラス編成上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」を指定する。

注3 : 教育職員免許状を取得するためには、「情報活用基礎」または「情報活用演習」からの1科目2単位修得する必要がある。

注4 : 教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位、「スポーツ科学」または「運動科学」から1科目2単位及び「スポーツ実習科目」から1科目1単位修得する必要がある。

「心と行動の科学」の履修を要望する。

「情報科目」2単位、「スポーツ実習科目」2単位のいずれか又は両方の単位を修得しなかった場合は、「領域科目」において要修得単位数18にその単位数を加えて修得すること。

なお、基盤科目を履修し単位を修得した場合は、領域科目の単位を修得したものと見なす。

## 学部履修基準

### 第五類(人間形成基礎系)

#### ○心理学系コース(心理学プログラム)

科目区分等			要修得単位数	開設学部		
教養教育	共通科目	教養ゼミ	2	46	総合科学部ほか	
		外国語科目	英語			6
			英語以外			4
		情報科目	(2)			
	教養コア科目	パッケージ別科目	6			
		総合科目	2			
		領域科目	(22)			
	スポーツ実習科目	(2)				
専門教育	専門基礎科目	18	82	教育学部ほか		
	専門科目	25				
	専門選択科目	25				
	卒業論文	6				
自由選択科目	8					
合計			128			

## 専門教育科目履修基準

### 第五類 心理学系コース (心理学プログラム)

履 修 内 容			要 修 得 単 位 数		開 設
専門基礎科目	研究法	心理学基礎実習Ⅰ	2	18	心理学系コース
		心理学基礎実習Ⅱ	2		
		心理統計法Ⅰ	2		
		心理統計法Ⅱ	2		
		選択科目	6		
外書講読		4			
専門科目	領域概論		10	25	
	領域特論		12		
	研究法演習	心理学課題演習	2		
		選択科目	1		
専門選択科目			25	教育学部ほか	
卒業論文			6	心理学系コース	
自由選択科目			8	教育学部ほか	

#### <履修上の注意>

『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、25単位まで認める。

第五類 心理学系コース（心理学プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専門 基礎 科目	研究 法	心理学基礎実習Ⅰ	②	4								「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
		心理学基礎実習Ⅱ	②		4							〃	
		心理統計法Ⅰ	②			2						〃	
		心理統計法Ⅱ	②				2					〃	
		心理実験法	2			2						〃	
		心理社会調査法	2				2					「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	
		心理検査法Ⅰ	2				2					「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
	心理検査法Ⅱ	2					2				〃		
	外 書 講 読	心理学外書講読演習Ⅰ	2			2						〃	
		心理学外書講読演習Ⅱ	2			2						〃	
		心理学外書講読演習Ⅲ	2				2					〃	
		心理学外書講読演習Ⅳ	2				2					〃	
専門 科 目	領 域 概 論	認知心理学	2				2					〃	
		学習心理学	2			2						幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
		社会心理学	2			2						「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	
		教育心理学	2				2					幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
		発達心理学	2				2					〃	
		臨床心理学	2			2						「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
	領 域 特 論	知覚心理学	2						2			〃	
		対人心理学	2						2			〃	
		児童・青年期発達論	2					2				幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
		乳幼児心理学	2					2				〃	
		心理療法論	2					2				「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
		生徒・進路指導論	2				2					生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法	
		教育相談	2						2			教育相談	
		精神医学	2						2				

○印は必修

区分	授業科目	開単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 科 目	心理学課題演習	②					4					「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	
	認知心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃	
	学習心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃	
	社会心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃	
	教育心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃	
	発達心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃	
	臨床心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃	
	認知心理学課題研究Ⅱ	1								2		〃	
	学習心理学課題研究Ⅱ	1								2		〃	
	社会心理学課題研究Ⅱ	1								2		〃	
	教育心理学課題研究Ⅱ	1								2		〃	
	発達心理学課題研究Ⅱ	1								2		〃	
臨床心理学課題研究Ⅱ	1								2		〃		
専 門 選択科目	本コース, 本学部他コース, 特別科目及び他学部等が開 設する専門教育科目 (副専 攻プログラム及び特定プロ グラムを含む。)												
卒業研究	卒業論文	⑥											
自由選択 科目	教養教育の領域科目, 基盤 科目及び専門教育科目												

## 到達目標評価項目と評価基準の表

## ○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1. 心の仕組みや働きに関する標準的知識を身につける	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する標準的知識とそれらが得られた方法を理解しており, それらを応用して問題解決的思考ができる。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する標準的知識とそれらが得られた方法を理解している。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域の標準的知識が身につけている。	別表のとおり
2. 心の仕組みや働きに関する発展的知識を身につける	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する発展的知識とそれらが得られた方法を理解しており, それらを応用して問題解決的思考ができる。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する発展的知識とそれらが得られた方法を理解している。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域の発展的知識が身につけている。	別表のとおり

## ○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1. 文献や資料を理解し, 批判的に評価する基本的能力・技能を身につける	文献や資料の内容を正確に理解し, 問題点とその解決方法を指摘することができる。	文献や資料の内容を正確に理解し, 問題点を指摘することができる。	文献や資料の内容を正確に理解することができる。	別表のとおり
2. 研究を実施するために必要な基本的能力・技能を身につける	心理学的研究方法としての統計法, 実験法, 調査法, 検査法を体験的に学習し, 身につけた基本的技能を新しい課題に適用することができる。	心理学的研究方法としての統計法, 実験法, 調査法, 検査法を体験的に学習し, 基本的技能を身につけている。	心理学的研究方法としての統計法, 実験法, 調査法, 検査法における基本的技能を体験的に学習している。	別表のとおり

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1. 研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能を身につける	独力で、適切な研究計画を立案することができる。	指導教員等による多少の援助があれば、適切な研究計画を立案することができる。	指導教員等の援助によって、適切な研究計画を立案することができる。	別表のとおり
2. 研究課題について適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能を身につける	実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を独力で適切に実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を独力で正しく適用することができる。	指導教員等による多少の援助があれば、実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を正しく適用することができる。	指導教員等の援助によって、実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を正しく適用することができる。	別表のとおり
3. 研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能を身につける	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で的確に、かつ魅力的に公表でき、自分や他者の発表を批判的に評価し、改善方法を指摘することができる。	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で的確に公表し、自分や他者の発表を批判的に評価することができる。	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で公表し、自分や他者の発表を評価することができる。	別表のとおり

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1. 心の仕組みや働きに関して探求するための能力・技能を身につける	研究計画の立案から成果発表まで、独力で実施できる総合的能力・技能が身につけている。	指導教員等の多少の援助があれば、研究計画の立案から成果発表まで実施できる総合的能力・技能が身につけている。	指導教員等の援助によって、研究計画の立案から成果発表まで実施できる総合的能力・技能が身につけている。	別表のとおり
2. 現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度を身につける	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されており、どのような行動をとるべきかを理解している。	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されており、どのような行動をとるべきかを考えている。	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されている。	別表のとおり



区分	授業科目	開設 単位	学期別週授業時数								到達目標の評価項目																				備考			
			セメスター								A(知識・理解)					B(知的能力・技能)					C(実践的能力・技能)					D(総合的能力・技能)								
			1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6		1	2	3
専門基礎科目	心理学基礎実習Ⅰ	2	4														○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理学基礎実習Ⅱ	2		4													○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理統計法Ⅰ	2			2												○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理統計法Ⅱ	2				2											○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理実験法	2			2												○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理社会調査法	2				2											○																	社会学、経済学(国際経済を含む)
	心理検査法Ⅰ	2					2										○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理検査法Ⅱ	2						2								○																		哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理学外書講読演習Ⅰ	2			2												○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理学外書講読演習Ⅱ	2			2												○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理学外書講読演習Ⅲ	2				2											○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
	心理学外書講読演習Ⅳ	2				2											○																	哲学、倫理学、宗教学、心理学
専門科目	認知心理学	2				2				○																							哲学、倫理学、宗教学、心理学	
	学習心理学	2			2					○																							哲学、倫理学、宗教学、心理学 注: 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	社会心理学	2			2					○																							社会学、経済学(国際経済を含む)	
	教育心理学	2				2				○																							哲学、倫理学、宗教学、心理学 注: 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	発達心理学	2				2				○																							哲学、倫理学、宗教学、心理学 注: 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	臨床心理学	2			2					○																							哲学、倫理学、宗教学、心理学	
	知覚心理学	2						2			○																						哲学、倫理学、宗教学、心理学	
	対人心理学	2						2			○																						哲学、倫理学、宗教学、心理学	
	児童・青年期発達論	2					2				○																						哲学、倫理学、宗教学、心理学 注: 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	乳幼児心理学	2					2				○																						哲学、倫理学、宗教学、心理学 注: 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	心理療法論	2					2				○																						哲学、倫理学、宗教学、心理学	
	生徒・進路指導論	2				2						○																					教育相談の理論及び実践、進路指導の理論及び実践	
教育相談	2						2				○																					教育相談		
精神医学	2						2				○																							
心理学課題演習	1					4																○	○	○								哲学、倫理学、宗教学、心理学		
認知心理学課題研究Ⅰ	1						2															○	○	○								哲学、倫理学、宗教学、心理学		
学習心理学課題研究Ⅰ	1						2															○	○	○								哲学、倫理学、宗教学、心理学		
社会心理学課題研究Ⅰ	1						2															○	○	○								哲学、倫理学、宗教学、心理学		
教育心理学課題研究Ⅰ	1						2															○	○	○								哲学、倫理学、宗教学、心理学		
発達心理学課題研究Ⅰ	1						2															○	○	○								哲学、倫理学、宗教学、心理学		
臨床心理学課題研究Ⅰ	1						2															○	○	○								哲学、倫理学、宗教学、心理学		
認知心理学課題研究Ⅱ	1							2														○	○	○					○	○		哲学、倫理学、宗教学、心理学		
学習心理学課題研究Ⅱ	1							2														○	○	○					○	○		哲学、倫理学、宗教学、心理学		
社会心理学課題研究Ⅱ	1							2														○	○	○					○	○		哲学、倫理学、宗教学、心理学		
教育心理学課題研究Ⅱ	1							2														○	○	○					○	○		哲学、倫理学、宗教学、心理学		
発達心理学課題研究Ⅱ	1							2														○	○	○					○	○		哲学、倫理学、宗教学、心理学		
臨床心理学課題研究Ⅱ	1							2														○	○	○					○	○		哲学、倫理学、宗教学、心理学		
専門選択科目																																		
自由選択科目																																		
卒業研究	卒業論文	6																				○	○	○					○	○				

## 平成 22 年度 担当教員 リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
岡本 祐子	担当授業科目：臨床心理学 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 704	
兒玉 憲一	担当授業科目：心理療法論 教育相談 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 810	
中條 和光	担当授業科目：学習心理学 生徒・進路指導論 心理学課題演習（共同） 学習心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 813	
深田 博己	担当授業科目：対人心理学 社会心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 709	
前田 健一	担当授業科目：発達心理学 児童・青年期発達論（特別科目） 発達心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 701	
宮谷 真人	担当授業科目：認知心理学 心理統計法Ⅰ，Ⅱ 心理学課題演習（共同） 認知心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 814	
湯澤 正通	担当授業科目：教育心理学 児童・青年期発達論 心理学課題演習（共同） 教育心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 702	
杉村 伸一郎	担当授業科目：幼児心理学 発達心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 B 棟 712	「幼児心理学」は、平成 21 年度入学生の受講年度（平成 23 年度より、「乳幼児心理学」に名称変更。

担当教員名	担当授業科目等	備考
石田 弓	担当授業科目：教育相談（特別科目） 心理検査法Ⅱ（共同） 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 7 0 3	
松下 姫歌	担当授業科目：心理検査法Ⅰ（共同） 心理検査法Ⅱ（共同） 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 8 1 2	平成 21 年度で「心理検査法」廃止。平成 22 年度に、「心理検査法Ⅰ」（4 セメ）、23 年度に「心理検査法Ⅱ」（5 セメ）を新規に開設。
森田 愛子	担当授業科目：心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱ（共同） 生徒・進路指導論（特別科目） 心理学課題演習（共同） 心理実験法 教育心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 7 0 5	
大塚 泰正	担当授業科目：教養ゼミ（教養） 心理検査法Ⅰ（共同） 教育相談（特別科目） 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 8 0 9	
樋口 匡貴	担当授業科目：社会心理学 心理社会調査法 社会心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A 棟 8 1 5	

担当教員名	担当授業科目等	備考
品川 由佳	担当授業科目：心と行動の科学（教養，共同） 心理学基礎実習Ⅱ（共同） 心理学外書講読演習Ⅰ 研究室の場所：教育学部A棟805	
山田 恭子	担当授業科目：教養ゼミ（教養） 心と行動の科学（教養，共同） 心理学基礎実習Ⅰ（共同） 心理学外書講読演習Ⅲ 心理学課題演習（共同） 研究室の場所：教育学部A棟811	
未定	担当授業科目：教養ゼミ（教養） 心と行動の科学（教養，共同） 心理学基礎実習Ⅱ（共同） 心理学外書講読演習Ⅱ 研究室の場所：	
未定	担当授業科目：心と行動の科学（教養，共同） 心理学基礎実習Ⅰ（共同） 心理学外書講読演習Ⅳ 心理学課題演習（共同） 研究室の場所：	
未定	担当授業科目：知覚心理学 精神医学 研究室の場所：	